

令和3年度第2回多摩市一般介護予防事業評価委員会 《要点録》

日 時：令和3年3月29日（火） 9時30分～11時00分（一部オンライン）

出席者：7名（傍聴はコロナ感染症拡大防止のため中止）

1 挨拶

2 報告

(1)各事業の令和3年度実績報（資料1・2・3・4・5・6に沿って事務局より説明）

【意見・質問】

○委員：訪問Bの件数が伸びない要因は、訪問介護サービスへ流れるや利用控え、実施主体の市民が感染管理できない等の理由があるのか？

⇒委員：担い手側、利用者側の両者の利用控えがある。介護ヘルパーへの移行もあるが住民主体による訪問型サービスが浸透できていないことや住民に来てもらうことに抵抗感があるのも一因と思われる。

委員：身体状況が重い方もおり、訪問Bの対応外のケースもあった。

○委員：介護予防ボランティアポイントは、コロナ禍でボランティア活動がボランティアの領域を超えてしまっている面もある。ボランティアを推進していくには保障や支援のしくみも必要。

○委員：介護予防ケアマネジメントの件数が少ない要因は？

⇒委員：入院等の理由で、要支援から要介護になる方は増えている。

委員：活動自粛によるフレイルからの持病悪化も考えられる。

事務局：2月末現在の件数であり、3月分の件数を足すと昨年度と変わらない見込み。

○委員長：利用控えの患者が多い。感染対策をしている旨を周知すると、参加者が増えるか。

3 協議

「コロナ禍における健康二次被害の報告と分析結果」（資料7・8・9に沿って事務局より説明）

【意見・質問】

○委員：地域介護予防教室など、令和2年度より今年度は参加者が増えているのが分かる。

○委員長：体操を継続していた集団とそうでない集団で比較する等の分析ができるとよい。

○委員：市民の方もストレスに対するコーピングができるようになってきているのか、やはり介護予防活動はやった方がよいと思えるようになってきている。屋外でできるプログラムは感染リスクが低いので、そういう機会を増やしていく必要がある。

○委員：歯科医院では元気な高齢者が多く、一般介護予防事業を知らない歯科医も多い。

オーラルフレイルからフレイルになるのでポピュレーションアプローチとして発信している。コロナで受診控えもあったが現在は戻ってきている。7月24日パルテノン多摩のオープンイベントで「お口の健康講座」を開催予定。

○委員：コロナ禍でも介護予防を進めているのが分かり、アウトカム指標は成果が上がっている。認知機能低下の方に寄り添う通いの場の取り組みや元気塾体験会等、参加者の満足度等を分析できるとよい。

4 その他

次の開催は7月を予定。

以 上